

愛知老人コミュニティーセンター ニュース

日本基督教団

愛知老人コミュニティーセンター

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88

TEL. 0561-74-5548

FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://silverhome-makiba.jp>

E-mail info@silverhome-makiba.jp

発行日 2017年7月19日

発行人 鈴木 卓也



まきば通信

第30号 20周年記念号

主イエスに捉えられて

愛知県がんセンター名誉病院長
愛知老人コミュニティーセンター前運営委員

森田 皓三



隠退教職中心であるが一般信者も含めた方々を対象として、1997年に開設された「日本キリスト教団・愛知老人コミュニティーセンターシルバーホーム・まきば」は今年20周年を迎える。昭和29年(1954年)に桑名教会で受洗した私は、青年会時代は毎夏、「まきば」隣接の愛知牧場の一室をお借りしての「青年修養会」に参加した。いまもシンボルとしてそびえる十字架の丘には、毎朝早天祈禱会のために登った記憶があって、南山の地はととても懐かしい。

私が故尾崎志満子姉のお誘いで「まきば」の運営委員になったのは、本施設の運用が始まって数年の頃、建設最初の資金不足のために収支が負債勘定となっていたこともあって、中部教区全体でたいへんな気がかりとなっていた。資金不足を可及的早期に解決するために、施設の満室化を急いだこともあって、当時の入居者が隠退教師あるいは信者ばかりではなく、施設長はじめ職員の方々の苦労は本当に並大抵のものではなかった。

いま「まきば」は職員の半数がキリスト者となり、入居者も隠退教職あるいは信者が増え続けている。愛知牧場の向こうにある南山教会にも支えられて、施設内では礼拝・聖餐式ばかりでなく、「賛美のつどい」「聖書の学び」など「まきば」の信仰生活も充実の一途を辿っている。

私は最後の数年をここで過ごされた名古屋北教会の故山本尚忠教師からも種々の指導を受けた。先生が仙台広瀬河畔教会に転任された際、半年間無牧の祈禱会で皆が勉強するようにと、当時出版されたばかりの「佐竹明著:フィリピ書注解」を置いて行かれた。3章12節に私の好きな「どうかして捉えたいと、わたしは追い求めている。それはキリスト・イエスによって捉えられたからである」というパウロの言葉がある。「まきば」の運用は、その運営に携わっている人たちばかりでなく、そこで生活を共にしている人たち全体で、今後も「主イエスを捉えよう」と追い求めてゆくのであろう。そしてそれは、この施設がすでに主によって捉えられている中での営みであるに違いない。



▲愛知牧場



わたしの愛唱讃美歌

その3

ご入居者様の愛唱讃美歌を紹介するシリーズの第3回目です。
好きな讃美歌にまつわる思い出を伺ってまいります。

重野 信之 隠退牧師 (元ルーテル拳母教会牧師)



讃美歌21 463番

わが行くみち いついかに
なるべきかは つゆ知らねど、
主はみこころ なしたまわん。
(くりかえし)
そなえたもう 主のみちを
ふみて行かん ひとすじに

私は、2010年3月末、熊本市神水にある日本福音ルーテル神水教会を70歳で定年退職しました。しかし、その後も神様の導きによって愛知県にある刈谷教会を2年間、静岡県袋井市にある新霊山教会へは新幹線で約1年間通い、牧会伝道に用いられました。

奄美大島出身で、高校卒業後は難関であった航空自衛隊に入隊しました。その時に英語を通じて出会ったルーテル教会の米国人宣教師によって信仰へと導かれ神学校に進みました。神学校卒業後は、愛知県半田市の常滑教会で6年間牧会しましたが、大阪のあいりん地区(通称:釜ヶ崎)で日雇い労働者たちと出会い、釜ヶ崎での労働者伝道を志願しました。自分も日雇いで働き、日曜日は礼拝奉仕ということをしていました。

釜ヶ崎の働きの中で、忘れられない出来事として紹介したいのは、マザー・テレサが初来日した際、私の活動を聞き、お忍びで訪ねて来られ、「希望の家」のために祈ってくださったことです。

私の牧会生活を振り返ってみると、苦しむ人、特に困窮を極めている人々の精神的な部分に寄り添い祈り続けるものでした。そんな時々思い浮かぶのが、わが行く道が、どのような時に、どうなるか分からないけれども、主のご計画の内に備えられ、用いてくださり、み心をあらわしてくださることを信じて歩むことを励ましてくれる讃美歌21の463番です。

今こうして「まきば」に入居させていただくことができたことも、神様に備えられ、多くの方々とのつながりによるものと心から感謝しています。これからも神様に用いられる限りは、私を通してみ心が顕されればと祈り願っています。

森ヒサ 姉 (無教会)



讃美歌(54年版) 66番

聖なる、聖なる、聖なるかな、
み手のわざなる ものみなは
三つにいまして 一つとなる
神の大御名 ほめ奉らん

『まきば通信』のお話をいただき、この機会に好きな愛唱讃美歌を見直してみましたが、その中から一つを選ぶことは難しい作業でした。これまで92年間生かされてきた中で、思い出す出来事と共に浮かぶ讃美歌が違うからです。

そこで、今現在私が好きな讃美歌と共に、思い出を紹介させていただきたいと思います。

これまで何度も歌っていた讃美歌で、それほど気にしていなかったのですが、年を重ねて来た時、昔、大垣で一緒に住んでいた祖父のことを思い出すようになりました。その祖父が好きな讃美歌がこの「聖なる、聖なる」でした。

讃美歌を歌う時、うまく音程が取れない祖父でしたが、この讃美歌だけはきちんと音程が取れて歌っていたのを覚えています。

その祖父が信仰へと導かれたのは、聖公会の牧師となった大叔父の影響でありました。祖父母は日曜日になると袴姿になり教会へと出掛けていました。クリスマスなど大事な礼拝の時には紋付袴姿と正装して礼拝に備えていました。それに比べて私の信仰は、女学生の1年目の頃に受洗した…という具合に、いつの間にか与えられていたという感じでした。

やがて私も年を重ね、祖父の年代になり、改めて信仰の歩みや、愛唱讃美歌を考えた時、祖父の信仰を思い、祖父が口ずさんでいた三位一体の主を崇め賛美するこの歌詞の良さを感じるようになりました。

イザヤ書6章3節に「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は地をすべて覆う。」とあるように、神に造られた者すべてが、三位一体の神の平和が実現することを願いつつ賛美できればと思います。やがてその時が来て、私が天に召される時に、家族がこの讃美歌を歌ってくれたら嬉しいです。

ご家族の声を紹介します

父が愛した「シルバーホーム まきば」

芹野 恵美 様
(小崎 弘雄 様 ご家族)

菜の花の鮮やかな黄色が春色の風景を染める季節になると、私の心は第二の故郷である父の愛した「まきば」を思い心が弾みます。そして、4年間この季節には爽やかな風が丘に香る愛知牧場を横切り「まきば」に帰ってきます。

緑豊かな自然に包まれ、折々の四季を感じさせてくれる「まきば」に父が入居させていただいたのは2008年9月でした。私はそれ以来5年間、自然に恵まれたこの「まきば」に父を訪問することが楽しみでした。もちろん、それは大好きな父との再会もありましたが、この「まきば」にいらっしゃる方々にお会いすることが、もうひとつの大きな楽しみでした。それは、私にとっては、ここにいらっしゃる方々が大切な神の家族だったからです。

ここには入居者と介護者が、まるで家族のように楽しく触れ合い、一緒に生活する穏やかな空気がいづもあると、訪ねる度に感じました。父はここでの人々との出会いを大切に、その交わりに喜びを感じ、交わりから安らぎを与えられて、心が癒されていたのだと思います。父にとって、介護をしてくださる方

々は、ただそこにいて、たとえ言葉が交わさなくなっても、目や顔の表情で理解し合うことのできる、なくてはならない存在の家族なのでした。だから父は「まきば」を「この地の楽園」と大変気に入っておりました。

牧師としてここ愛知県中部の地で長く過ごした父は、「まきば」の礼拝室に美しいステンドグラスを願い、その思いが叶って礼拝室に設置されました。そこに描かれている「葡萄と麦」を見ると『わたしに繋がっているなら良い実を結ぶ』と、聖書の中で神様が約束されたことが思い出されます。

まるで、あの葡萄ひと粒ひと粒の繋がりは「まきば」での日々の生活そのものようです。そのような「まきば」の中で多くの実が結ばれ、父は心からそれを喜び、感謝しておりました。

2013年1月、父は神の家族に見守られ、地上での生活とお別れをいたしました。とても安らかに穏やかな笑顔でした。人生を全うし、天に帰る喜びに満ちておりました。

父が天上に帰っても、地上にいる家族にお会いできる恵みに感謝し、父が愛した「まきば」に今年も帰ってきました。私にとって「まきば」は里帰りなのです。建物のHouseでなく、孤独を救い、希望に満ち、愛が溢れるあたたかなHomeへと。

2017年4月29日 召天者記念礼拝



▲小崎弘雄牧師



▲左より芹野さん、小崎牧師ご家族

特別企画

シルバーホーム「まきば」開設20年を迎えて

篠田 潔牧師に聞く



インタビュアー：愛知老人コミュニティーセンター宗教主事 小田部 正一

シルバーホーム「まきば」は1997年1月6日に開所して、20年目を迎えました。この記念すべき節目に当たって、篠田運営委員長にこれまでの歩みを振り返っていただきました。

Q 創立20周年を迎えます。篠田先生と「まきば」との関わりを振り返ると、どのようなことを思い出されますか。

篠田先生：私がこの「まきば」に関わることになったのは、中部教区総会で「まきば」の提案がされた時からです。当時は、「まきば」を作る趣旨には反対がなかったので、承認されました。そして、当初から言われていたのが、教団は、老人ホームという施設を運営するということは考えていませんから、付帯条件として、いずれ特別養護老人ホームを作り、社会福祉法人の法人格を取得し、「自立を目指す」ことを条件にOKが出されたのでした。

また、16年前からは理事として直接関わることになりました。その後、規則変更され、新体制になりました。やがて入居者の中で介護の必要な方が出始めたので、介護棟の建築が必要になりました。

Q そこで、介護棟の必要性が出てきたわけですね。新館が立ったことは「まきば」にとってどのような影響を与えましたか。

篠田先生：新館を立てる計画の頃に、鈴木さんが施設長として迎えられ、いろんな職員の意見を聞いて、介護と礼拝ができる集会所が欲しいということになりました。

新館ができたことにより、ナースステーションができ、良い介護ができるようになったこと、キリスト教の信仰を注がせるようになったこと、明るい印象が与えられるようになり、見学者へのピーアールもしやすくなりました。



▲小田部主事と対談する篠田先生

Q 「まきば」は不思議と資金の面では、大口融資や、献金があり、創立当初から『運用面でも祝福されています』と報告されていましたが。

篠田先生：いや～、最初は多額の借金を抱えて大変でしたよ。理事のある方には借金の担保提供をしていただきました。

Q 篠田先生のご出身は、どこですか？

篠田先生：私はずっと名古屋（熱田区）で、住友金属に勤めていた8年間のうち研修のため、大阪に半年ほど行ったのと、海軍で2年間、神学校のために東京へ行った6年、神学校を卒業して半田教会に赴任してから隠退するまで42年間を過ごしました。

半田教会は、私が赴任した頃は、家の教会で会堂がありませんでした。そして、赴任した時に「骨を埋めるまでいます」と言ってしまったので、会堂を立てること、教会の中心となって支えてくださっていた方を送り出すのは辞められないと思っていました。



Q では、半田教会を隠退されてからはどうされていま
したか？

篠田先生：半田教会の近くのアパートの2階に部屋を借
りて、妻と二人で暮らしていました。妻には
介護が必要だったので、訪問介護を利用し
たりしながら、老老介護をしていました。



Q 「まきば」に入居される決断に至ったのは、どのよう
なきっかけですか？

篠田先生：妻の介護が大変になったので、鈴木さんに相
談してみたら、家まで来て下さって「篠田先
生、限界ですよ」と言われて。入居すること
になりました。

Q 入居されてから「まきば」での生活はどうか。

篠田先生：妻が介護棟に入って、私は本館4階にいまし
た。妻が亡くなって、私が胆石の手術をして
からは、本館1階になりました。終の住処と
して快適ですよ。

今は運営委員長（前理事長）として、職員
礼拝で話をしたり、「絵手紙の会」で絵を描
いたりしています。



Q 篠田先生は趣味で絵を描かれて『まきば通信』のカッ
トにも使わせていただけていますが、いつ頃からな
さっておられるのですか？

篠田先生：半田教会時代から教会員の誕生日などに宛て
てハガキを出していたのですが、初めは人数
が少なかったので、メッセージもたくさん書いて
いました。それから、会員が増えてきたので、
絵を描けば、その分メッセージを書くスペース
も少なくなるし、絵が入っていると面白いだ
ろうと思って始めたのがきっかけです。

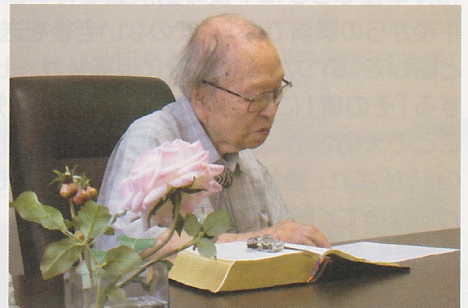
Q 習われたりしたのですか？

篠田先生：まったくの我流です（笑）。

Q 教団、特に中部教区の諸教会・伝道所の祈りによる支
えがあつての「まきば」だと思いますが、メッセージ
をお願いします。

篠田先生：いつも「まきば」を覚えてお祈りくださり、ま
た献金をしていただきありがとうございます。
引き続き、お支えくださるようお願い
いたします。

また、隠退教師が支えられるように、隠退
牧師館の建築実現のために祈っていただき
たいですし、私の目が黒いうちに見てみた
いですね。



▲職員礼拝でみ言葉を語る篠田先生

Q 最後に何かありますか？

篠田先生：率直な感想としては「よくここまできた
な!」という感じですね。

長時間、貴重なお話を聞かせていただ
きありがとうございました。

まきばトピックス

このページでは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

新職員紹介

4月より、愛知老人コミュニティセンター宗教主事として、またシルバーホーム「まきば」施設長補佐として、こたべ まさかず小田部 正一（前日本基督教団中濃教会）牧師を招聘しました。

この度、愛知老人コミュニティセンターより招聘を賜り宗教主事として赴任しました小田部正一です。前任地は岐阜県加茂郡坂祝町にある中濃教会で17年間の牧会に励んでまいりました。

また、岐阜地区においては地区長としての役を6期務めさせていただき、地区内諸教会の方々をはじめ、教区とのつながりが与えられましたことを心から感謝しています。

これからは、主から新たに託された働きのある、愛知老人コミュニティセンターの宗教主事として、また、シルバーホーム「まきば」施設長補佐としての務めを全うしてまいります。



これまで多くの方々の祈りによって支えられてきたシルバーホーム「まきば」での働きを担う光栄と、鈴木卓也施設長を始めとする多くの職員の方々によって得られた信頼と実績をさらに積み重ねていくために、微力ながらも主の御言葉を伝える者として尽力する覚悟です。

また、「まきば」が、中部教区内の諸教会・伝道所で抱える高齢化や介護の問題に寄り添い、課題を共に担える器として用いられていくことを信じ、「まきば」と教会との交わりが、より一層豊かになり、困難な状況にある人々に仕えることができると願っています。

碧南教会礼拝報告

2017年5月14日（日）の聖日礼拝に、「まきば」の小田部正一宗教主事と鈴木卓也施設長が招かれ、礼拝奉仕ならびに午後の講演会を行いました。特に午後からの講演では「不安のない老後を送るには…」と題して、いつかは訪れる介護福祉サービスを利用する「その時」に備え、様々な社会資源を知っておくことの大切さや、良い施設選びのポイントについての話がされ、参加された方は熱心にメモを取りながら聞いてくださいました。

講演後は、実際に介護されている方からの感想や質問などもあり、これからの「まきば」が目指し、求められている働きの時が与えられたと感謝しています。

今後も「まきば」が諸教会・伝道所に用いられることを願っています。

講演依頼やご相談がありましたら、ご連絡ください。



▲礼拝



▲午後の講演風景

大規模修繕工事報告

本館完成から20年が経過したため、大規模修繕工事を実施しました。昨年10月に開始、全館を足場と防塵シートですっぽり覆い、ご入居者の協力と理解を得ながら2月に無事完成。篠田運営委員長による感謝祈禱会をもって終了しました。

壁面タイルが美しさを取り戻し、屋上の大十字架も輝きが増しました。

写真は、センター委員会による修復のための事前チェックの様子と、完成後の比較です。

リニューアルした「まきば」を是非見に来てください。



■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名 (2016年4月1日～2017年3月31日)

教会福祉献金	匿名 2名様	金額 15,345,492円
センター維持献金	水野紀子様、丹羽三夫様、名古屋中村教会様、隅田明子様、伊藤まり子様 熱田教会めぐみ会様、愛知西地区委員会様、愛知東地区教師会様 布施健一郎様、名古屋学院一麦会様、岡崎教会 泉の会様、岡崎教会様 中京教会様、広路教会様、学校法人丸岡栄光学園 緑幼稚園様 中部学院大学 宗教委員会様、鈴鹿教会様、小崎 真様、南山教会様 他(匿名)15名様、「礼拝」での献金 11口、「聖書の集い」での献金 20口	金額 568,797円
		合計 15,914,289円

皆様のお支えに感謝します。

献金
振込先

① 三菱東京UFJ銀行 日進支店
(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
理事長 篠田 潔
普通口座 1162658

② 郵便振込
日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
振替番号 00870-4-29934

スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、
人格を大切に守る介護を実践してみませんか？
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



看護職員(昼間)

週1日～5日

【資格】看護師、准看護師

【勤務】基本は9:00～18:00(休憩1時間)
ですが、勤務時間は相談に応じます。

看護職員(夜間)

週1日程度から。曜日に限定がある方は相談
に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00～翌8:00(仮眠5時間あり)

【手当】精動手当あり

正職員への任用制度もあります。

●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当：小中)

入居予約受付中

見学や体験入居もできます(要予約)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home

まきば

シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

キリスト教プログラム

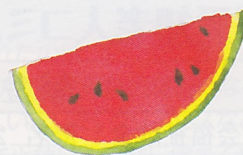
「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの
定例集会在毎週施設内であり、自由に参加できます。
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会から
バスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究
祈禱会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」
にも自由に出席することができます。

交通機関

名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

類型及び表示事項

施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式
介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件/60才以上で入居時自立及び必要支援の方
居室区分/個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制/2:1以上



●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

編集後記

まきば通信を手にする時、実は編集後記を読むのも楽しみの一つ。今回とても印象に残る個所が多い。濃い素敵な言葉が宝石のごとく散らばっているので、一つそれをいただいた。「ここでは入居者と介護者が、まるで家族のように楽しく触れあい、一緒に生活する穏やかな空気がある」。わたしたちの神の国がここにもある。通信を通して、神の庭と一緒に住まわせていただく。初夏の聖霊の風を今日も感じている。

(森松)

